

# JAたいせつにおける農福連携の推進体制 ～JA主導による共同取組活動と推進に向けた取組～

## ◎取組の経緯（きっかけ）

令和3年まで、JAは、旭川市・鷹栖町の自立支援協議会の会議体に参加し、意見交換や情報収集のみの関わりであったが、令和4年から、農業分野の人手不足を補う新たな手段としてや、障がい者等を置き去りにしない地域社会を目指し、農福連携に取り組むこととした。

農福連携の取組実現にあたり、両自立支援協議会と1年ほど協議を重ね、農林水産省が推進・提唱している農村RMO※の取組を見据えた形で、旭川市東鷹栖地区と鷹栖町の両中山間直接支払事業の共同取組として実施することとした。

当組合の職員も障がい者と共同作業することで不安が解消されて認識が変わるとともに、JA女性部と農福連携を実施したことで、来年度以降、農業現場においても、農福連携が人手不足を補う1つの選択肢となるきっかけになったと感じている。

また、障がい者にも生きがいや楽しんで農作業に当たってもらえるよう、最低賃金相当の作業委託料を支払うよう心掛けている。

※複数の集落の機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織（農村型地域運営組織）。

## ◎取組内容

### ◆水稲種籾の袋詰め作業

当組合職員とともに計量器から排出される5<sup>キ</sup>の水稲種籾ネットを縛り、コンテナに積込む作業で、令和4年は総数21,951袋を作成。

### ◆水稲種籾温湯消毒施設での脱水作業

60℃の温水に浸されたネット種籾を10個、脱水機に投入し、脱水後取り出し、コンテナに積み込む作業を実施。

### ◆ライスセンター小麦受入れコンテナ組立と内包袋清掃取付作業

大型スチールコンテナの組み立て作業と内包袋の清掃・取付作業を実施。

### ◆フラワーメッセージ花壇制作とJA女性部と共同での植栽作業

田んぼアート法面の花壇制作準備とマリーゴールドの植栽作業を実施。

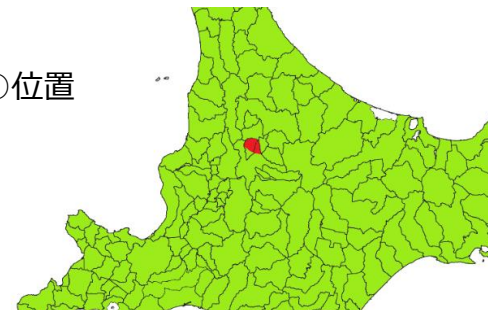
上記のJAの取組を広報やSNSで組合員へ周知



農業者自身が農福連携を実施（R4実績：5件）

## 地域の概略

### ○位置



○農業データ  
経営形態  
水稲、麦類、  
野菜等

○福祉データ  
A型福祉事業所  
8か所  
(旭川市8)  
B型福祉事業所  
66か所  
(旭川市64、鷹栖町2)  
※令和4年12月31日現在



事前講習会(袋詰作業)

水稲種籾袋詰め作業



JAたいせつ女性部と共同による植栽作業

## ◎成果と課題 □：成果 ■：課題

□ 今回の農福連携の取組により、携わった当組合職員の障がい者に仕事をまかせられるかという不安が解消され、障がい者に対する認識が大きく変わった。また、JAたいせつ女性部との共同作業を通じて、農業者自身に農福連携を体験してもらい、より現実的に普及していく道筋を作れた。

■ 農業者一戸あたり一人の障がい者で対応する「点」での取組では、農業者への普及にも、就労継続支援B型事業所側の対応にも限界や制約が生じるため、「面」として広域で取り組むことが重要である。そのため、「面」として共同活動で計画できるものから実施し、農福連携の必要性を広く農業者に理解いただき、徐々に「点」である農業者へ普及させていくことが重要と考える。